

平成30年度

財政健全化・経営健全化
審査意見書

大和市監査委員

総目次

財政健全化の審査意見について 5

経営健全化の審査意見について 11

財 政 健 全 化

令和元年8月19日

大和市長 大 木 哲 様

大和市長 大 木 哲 様

大和市長 大 木 哲 様

平成30年度財政健全化の審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項の規定に基づき、審査に付された平成30年度健全化判断比率及び算定の基礎となる事項を記載した書類を審査した結果、次のとおり意見書を提出する。

《 目 次 》

1	審査の概要	-----	7
2	審査の期間	-----	7
3	審査の方法	-----	7
4	審査の結果	-----	7

1 審査の概要

この財政健全化審査は、市長から提出された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として実施した。

2 審査の期間

令和元年7月24日から8月14日

3 審査の方法

審査は、健全化判断比率の算定は適正に行われているか、健全化判断比率の算定となる事項を記載した書類は適正に作成されているかについて審査を行った。

4 審査の結果

審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められた。

なお、本市の健全化判断比率の各指標は以下のとおりである。

(単位：%)

健全化判断比率	平成30年度	平成29年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	11.42	20.00
連結実質赤字比率	—	—	16.42	30.00
実質公債費比率	0.6	0.7	25.0	35.0
将来負担比率	29.6	28.4	350.0	

※実質赤字額、連結実質赤字額がない場合は、「—」を表示

実質赤字比率及び連結実質赤字比率については、平成30年度実質収支が黒字であったため該当がなかった。また、実質公債費比率については、0.6%（対前年度比0.1ポイント減少）、将来負担比率については、29.6%（対前年度比1.2ポイント増加）となっており、いずれも早期健全化基準を下回っている。引き続き、各指標の分析により自らの財政状況を正確に把握し、健全な財政運営が行なわれるように努めることを望むものである。

参考

【健全化判断比率について】

(1) 実質赤字比率

一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率

本市においては、一般会計及び渋谷土地区画整理事業特別会計が対象となる。

(2) 連結実質赤字比率

全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率

本市においては、上記に記述した実質赤字比率に算入した一般会計及び渋谷土地区画整理事業特別会計以外に国民健康保険事業特別会計、下水道事業特別会計、介護保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計及び病院事業会計が対象となる。

(3) 実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模に対する比率（3カ年平均）

上記に記述した連結実質赤字比率に算入した全会計以外に一部事務組合等が対象となるため、本市においては、広域大和斎場組合が含まれる。

(4) 将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

上記に記述した実質公債費比率に算入した全会計以外に地方三公社や第三セクター等が対象となるため、本市においては、大和市土地開発公社が含まれる。

經 營 健 全 化

令和元年8月19日

大和市長 大 木 哲 様

大和市監査委員 木 原 英 和

大和市監査委員 古 谷 田 力

平成30年度経営健全化の審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づき、審査に付された平成30年度資金不足比率及び算定の基礎となる事項を記載した書類を審査した結果、次のとおり意見書を提出する。

《 目 次 》

1	審査の概要	-----	1 3
2	審査の期間	-----	1 3
3	審査の方法	-----	1 3
4	審査の結果	-----	1 3

1 審査の概要

この経営健全化審査は、市長から提出された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として実施した。

2 審査の期間

令和元年7月24日から8月14日

3 審査の方法

審査は、資金不足比率の算定は適正に行われているか、資金不足比率の算定となる事項を記載した書類は適正に作成されているかについて審査を行った。

4 審査の結果

審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められた。

なお、本市の資金不足比率の指標は以下のとおりである。

(単位：%)

資金不足比率	平成30年度	平成29年度	経営健全化基準
下水道事業特別会計	—	—	20.0
病院事業会計	—	—	20.0

※資金不足額がない場合は、「—」を表示

資金不足比率については、下水道事業特別会計及び病院事業会計ともに資金不足が生じていないため該当がなかった。

今後も良好な経営状態を維持するため、引き続き効率的で健全な運営に努められたい。

参考

【経営健全化について】

○資金不足比率

公営企業ごとの資金不足額の事業規模に対する比率

本市の場合は、下水道事業特別会計及び病院事業会計が対象となる。